

し ぜん かん
自然館
☎82-7345

<開館時間>9:00~17:00まで
<お休み>7月4・11・19・20・25・29日
8月1・8・15・22・29日

自由研究のヒント
自然館で見つけよう!

自由研究相談日

7月26日(火)・27日(水)、8月23日(火)
9:30~11:30

自然館のスタッフの皆さんが、自由研究のテーマの見つけ方や研究の方法、疑問に思っていることなど、自由研究についての相談にのってくれます。ヒントをもらいに出かけてみよう!



自然館のスタッフのみなさん

もうすぐ楽しい夏休み!みんなは、もう計画を立てたかな?今年も、情報がいっぱい「広報まつだ子ども版」を作りました。夏休みの間、みんなが利用できる施設や行事、花火大会・お祭りなどの情報を紹介しています。

近くの市・町の博物館やスポーツ施設など、無料で使えるチケットもついています。今年の夏も、子ども版を活用し、家族やお友だちとたくさん思い出を作ってね!



やかた

子どもの館

☎82-9869



子どもの館のスタッフのみなさん

<開館時間>9:00~17:00まで
<お休み>7月4・11・19・20・25日
8月1・8・15・22・29日

生きもの体験講座

「水中の生き物を調べてみよう」

日時 8月6日(土) 9:30~11:30
場所 酒匂川または川音川
持ち物 ビニール袋、筆記用具、虫めがね
川の中や水辺で、どんな魚や虫、植物などが
見られるかな?みんなで観察してみよう。

ミニたんけん日

「ミニ水車を作って楽しく遊ぼう」

日時 7月23日(土) 9:30~11:30
場所 自然館
持ち物 なし
草や木のくきや葉など、身の周りの植物を使
って、水車を作ってみよう。

「虫と植物の関係を調べてみよう」

日時 8月20日(土) 9:30~11:30
場所 自然館
持ち物 ビニール袋、筆記用具、虫めがね
虫の生活の様子や、植物との関係を調べてみ
よう!



参加したい人は、参加したい行事の3日
前までに、自然館へ名前、人数、電話番
号を連絡してください。

電話・FAX 82-7345



◀自然館のポン太

遊びみんな
で
まじこね!

7/2(土)~10(日) 七夕週間

七夕飾りを作り、たんざくに願い事を書いて飾
りましょう。*7月3日に来た人には、ミニ笹
竹をプレゼント!(先着20名)

8/2(火)~7(日) 伝承遊び週間

こま、お手玉、けん玉、はねつき、囲碁、将棋な
どの昔から伝わる遊びにチャレンジしてみよう。

**7/22(金) サークル共演会
「いろとりどりとりのはなし」**

時間 10:30~11:45
6つのサークルによる、歌と紙
しばいの楽しい会です。
みんなで見に来てね。入場自由

8/7(日) 「枝でつくる、枝であそぶ」

時間 10:00~12:00 協力:ハトイ
のこぎりやかなづちを使って、木の枝でおもち
やを作しましょう。

8/14(日) 「新聞紙であそぼう」

時間 13:30~14:30 おって、たたんで、や
ぶいて、まるめて、組み立てて…。新聞紙から
何ができあがるかな!? 入場自由

プール

7月21日

8月31日まで

夏休み期間、町の学校プールで自由におよぐことができます。
注意を守って、みんなで楽しくおよごう!

場所/町の小・中学校のプール 時間/11:30~16:00

- 雨や気温により休みになる時があります
- 自転車は道にとめないようにしましょう。
- おさいふなど大切なものは家においてきましょう。



「天にそびえるバベルの塔」たかし よいち・著
「バベルの塔の伝説がしっかり書いてあり、読みやすい!」
「真夜中のミステリーツアー」学校の怪談編集委員会・編
「いろいろな話があってあきない。ふりがなもふってあるから、1年生～6年生まで読めると思う。」

「三国志」横山 光輝・著
「歴史マンガだから頭も良くなる! 優しさ、力が関係する物語で、すごくおもしろい。」

「織田信長」樋口 清之・著
「信長がだんだんと成長していく様子が読みどころ」

「ロータス森の伝説 よみがら魔法」さとう まきこ・著
「わくわく、どきどきしながら読める本です。」

「ハリポッターと賢者の石」J.K.ローリング・著
「主人公のハリポッターが魔法学校に入学し、親友ができた、冒険するところが楽しい。続きもあります。」

「マンガ日本の歴史」
「昔の時代のことがよくわかる。歴史的人物の名前も覚えられた。」鎌倉幕府がほろびる部分がおすすりです。マンガなので読みやすかった。」

「かいけつゾロリの大ききょうりゅう」原 ゆたか・著
「ゾロリがいろいろな事件を解決するところが楽しい。」

「かいぞくポケット」かみなりトッケボ
「かいぞく船で仲間と未知なる場所へ旅をしていくお話です。」

「じっぽ～まいごのかっぱはいしんぼう」たつみ 章・著
「くいしんぼうのかっぱ・じっぽと太郎のお話。最後はかなしいけれど、たのしく読めます。」

「モンスターホテルでおどろみましょう」柏葉 幸子・著
「モンスターたちのとまるホテルで起こる、いろいろなハプニングにどきどきします。でも、最後は問題解決ですきり!!」

「ある晴れた日に」木村 裕一・著
「こわいオオカミが1匹の羊に会って…。2匹のやりとりが楽しい。3年生の頃に読み、今も印象に残っている本です。」

「ビスケットのひみつ」学研・編
「おいしいお話。主人公たちがエンゼルのおかげで仲良くなるところがいい。あのナポレオンも、ビスケットを持ち歩いてたんだって」



松田小学校図書委員会のみなさん
(左上から、小越くん・瀬戸くん・内藤くん・遠藤くん・青木さん、遠藤くん・大野さん・高橋さん・浦くん・山岸さん・渡辺さん・山崎くん・白川くん・加藤くん・内本くん・鍵和田さん・草野さん)

みんなのおすすめ本

松田小・寄小の図書委員会のみなさんに、おもしろい本、どきどきする本、感動する本…を教えてくださいました。ぜひ、手にとってみてください。



寄小学校図書委員会のみなさん
(左上から、吉崎さん・桐生さん・山岸さん・花田さん、内田さん・中津川さん・四家さん)

「晴れた日は図書館へいこう」緑川 聖司・著
「おすすりめは、主人公が図書館で本が消えたなぞを友達といっしょにといていくところ。」

「リトル・ウィング」吉富 多美・編
「葛と夏美はいつも仲よし。でも、夏美のお父さん・お母さんが二人の間を引きさく。2人の友情はどうなる?」

「十五少年漂流記」ジュール・ベルヌ・著
「漂流した15人の少年たちは、島での生活を始めますがそこに悪者があらわれます。そのたたかいぶりが見どころ!」

「大当たりズッコケ占い百科」那須 正幹・著
「主人公3人組のひとり、八谷良平が占いに興味をもったところ、死んだ人の魂が乗りうつって事件が起きます。」

「デルトラクエスト 沈黙の森」エミリー・ロッダ・著
「地図を見ていろいろな所へ旅するのがおもしろい。」

「魔女の宅急便」角野 栄子・著
「魔女のキキとねこのジジが、町の人とふれあい成長していくお話。いろいろ想像ができ、とても楽しいお話です。」

「アウレシア大陸記」後藤 耕・著
「歌姫にあこがれるエルはふつうの女の子。なのに、歌姫とかんちがいされたことから、さまざまな出来事に巻きこまれていきます。」

「コンビニのひみつ」学研・編
「みんながよく行くコンビニエンスストアのことがよくわかりました。マンガなので読みやすいです。」

「サイダーのひみつ」学研・編
「私も好きなサイダーがどうやってできたのかがわかる! たんさん水・レモン水・砂糖からつくるレモネードが始まりなんだって」

「わたしのママは魔女 ママの魔法で大へんしん」藤 真知子・著
「魔法で、主人公かおりのまわりで、いろいろなハプニングがおきるところがおもしろい。女の子におすすりめのシリーズです。」

ようちえん・小・中学校の先生からのおすすめ本

ようちえんのみんなに

「はじめてのおつかい」林 明子・著
みいちゃんがお姉ちゃんだという自覚を持って、ママにたのまれておつかいにでかけます。みいちゃんの心がゆれ動く様子がよくわかり、がんばるすがたがほほえましい。さし絵もすてきですよ!

「くまちゃんとうさちゃんシリーズ」そうま こうべ・著
「クロは、ぼくのいぬ」宮川 ひろ・著 もおすすりめです。

「そらまめくんのベッド」なかや みか・著

自分のじまんのベットのみんなにかしてあげない、さわせない、けちなそらまめくん。どんどんと友だちがへっていき…。ある日、友だちがみずうみでおぼれそうになっちゃった。そらまめくんは、どうしたかな?



1・2年生むき

「きょうはなんのひ?」瀬田 貞二・著
まみこから「今日は何の日?」と聞かれたお母さん。まみこからの手紙を読み進めていきます。さて、次の手紙はどこかしら?



「森のサンドウィッチやさん」舟崎 やす子・著
「森のネズミとおともだち」岡野 薫子・著
「もったいないばあさん」もおすすりめです。

「はれときどきぶた」矢玉 四郎・著

「日記には正直なことを書きなさい」そんなことを言われても、見られちゃたまらない。ウンは書けないけど、明日のことならウンじゃないし…。ところが、おかしなことが起こったのだ!



5・6年生むき

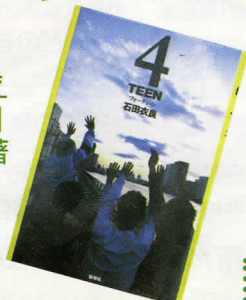
「ナルニア国物語」C. S. ルイス 著

ある日、4人の兄弟が大きな衣装ダンスの中に入ると、そこは雪のつもる別世界ナルニア国へ続いていた。永遠の冬に閉ざされていたナルニアで、子どもたちは正義のライオン、アスランと共に白い魔女の軍と戦います。物語の楽しさを味わえる壮大なファンタジー。



「こどもに分かるニュースを伝えたい～ぼくの体験的報道論」池上 彰・著

NHK「週間こどもニュース」のキャスターだった筆者。社会部記者として経験をつんでいく。地震の災害現場取材の回想には、胸を打たれる。「伝えること」に、並々ならぬ熱意で向かう筆者の姿が見えてくる1冊。



中学生むき

3・4年生むき

「長くつ下のピッピ」A. リンドグレーン・著
「モンスターホテルおめでとう」柏葉 幸子・著
「へんてこもりのなまえもん」たかどの ほうこ・著
もおすすりめです。

「ズッコケ3人組 ハワイへ行く」那須 正幹・著

みんなにおなじみのズッコケ3人組シリーズ。このお話は、著者の那須さんが実際にハワイに行き書いたもの。読むだけで、ハワイの海や風景が目にかびます。楽しいですよ!

「キツネ山の夏休み」富安 陽子・著
「どうぶつ句会」あべ 弘士・著
「クローディアの秘密」カニグスバーク・著
もおすすりめです。

「4 TEEN」石田 衣良・著

悩んだり、傷ついたり…。そんな毎日でも仲間がそばにいてくれたら、そんなに悪いものじゃない!?

「夜のピクニック」恩田 陸・著
「旭山動物園の奇跡」扶桑社 編
「幸福な食卓」瀬尾 まいこ・著
「ポケット詩集」田中 和雄・著
もおすすりめです。

知っていますか？

わかじ



ちのきと伝わる昔ばなし

みなさんが住んでいる松田町に、昔から伝え残されている「昔ばなし」を知っていますか。今回は2つのお話をしようかいします。

町には、この他にも今も伝わる昔ばなしがあります。夏休み、ちいきに伝わるお話や昔の松田町について、おじいさんやおばあさんに聞いたり、調べてみては？新しい発見があるかもしれませんよ。

（社）小田原青年会議所「わたしたちのふるさと昔ばなし」より
（故）おさき ただあき先生再話

松田に伝わる昔ばなし

沢尻の鬼六郎

むかし、松田の沢尻に六郎という子があった。六郎、ずつ体はでっかいがケンカ一つするではなし、人一倍仕事をするでもなかった。あるとき、初めてねんぐの米をおさめに小田原に行くことになった。

六郎にとっては、見るやうに見えるやうにがめずらしい。首をふりふりあるいてあった。

飯泉の観音さんのところまでくると、村の者が大勢ワイワイとお堂の屋根、ふしんをしている。六郎は足を止めてながめていたが、「そんなちっぽけなたば放り上げてたら、いつ終わるかわかんねえや。」と、つい口をすべらせてしまった。

「なにーどのどいつか知らねえが、ばかにでけえ口きくでねえかよ。てめえ、自分でやってみろってんだ。」

村人らは目を三角にしておこったが、六郎は平気な顔をして、「これからねんぐを納めに行くんじや、また帰りによるわ、でけえたば用意しとけや。」と言つと、ふり向きもせず馬を引いて行ってしまった。

六郎、上ぎげんになって飯泉の橋を渡っていると、向こう岸よりいやにいびりくさったおさむらいが渡りはじめた。

「こりゃいけねえ、このせまい橋を……なあにこつちが先だ。」六郎は、すすん歩いていった。



「やいーこのぶれい者め、馬をもどせー！」「へい、でも、わしの方が先で、ここまで来てしまったんで、馬だつて向きがかえられせん。」

「このどん百しよつめ、口答えする気が！」おさむらいは刀のつかに手をやり、六郎をにらみつけた。

「ま、まって下さい。おさむらいさん。」

六郎は、そう言つと、馬の腹の下にもぐりこんだ。おさむらいさんがポカーンとして見ていると、六郎、左手で馬の前足を、右手で後足をつかむと、

イー エー！

と、米だらわつけたまま馬を持ち上げ、橋のらんかんの外側へさし出した。

さすがのおさむらいもこれにはびっくり、六郎の横を通りぬけると、逃げるように行つてしまったと。

さて、観音堂の屋根ふしんの若しゅうたち、かやの大きなたばをこしらえて水にひたしたり、中の方に石をつめたりして、六郎のもどつてくるのをいまかいまかと待っていた。

ねんぐを納めた六郎が、帰りは馬に乗つてタカスク、タカスク、タカスクやつてくると、

「おい若えの馬を下りろ、約束だ、こいつを屋根まで放り上げてもらおうか、飯泉のやつはな、とくへつ重くてきてんのよ。今さらいやだとはいわせねえぞ。」

村の若しゅうがまわりを取り囲んでいくらおどかしても六郎は平気な顔。馬を木につなぐと六郎はかやの大たばに手をかけた。それから、屋根の方をにらみつけると、ソリヤー

ものすこい声に村の者たちは、ズズズズと後ずさりした。

六郎のなげたかやの大たばは、お堂の屋根をこえて、はるか松田山の方までうなりをたてて飛んで行つてしまった。

村の者たちは、開いた口がふさがらん。

やつとひとり、「おめえ、どこのもんよ。」

六郎は、にこにこしながら、「わしや、沢尻の六郎よ。」

と言つと、馬にまたがりタカスク、タカスクと行つてしまった。それからというもの、六郎はみんなから、「鬼六郎、鬼六郎」と呼ばれ、仕事も人一倍やるようになったといふことだ。

寄に伝わる昔ばなし

お夏石

むかし、寄に、お夏といつたいそう意地の悪い女があった。ある時、お夏が川で里いもを洗っていると、身なりのきたない旅の坊さんが、ヨロヨロ通りかかったそうなの。

シユグラ シユグラ

シユグラ シユグラ
うまそうないもが、ポイポイと目籠に投げ込まれていく。

「そのいもを分けて下さらぬか……。」
「えっ、これけえ、だめだめ、このいもはな、村一番のいもよ。お前さんなんざにやくわせらんねえいもだよ。」

お夏は、そう言つと、
シユグラ シユグラ ポイ シユグラ シユグラ ポイ

「何日も食べていないもんで、どうか一つでもいただけないだろうか……。」

坊さんは、頭を何度も下げてたのんだが、お夏は、「うるせえ坊主だ。このいもはな、石いもだから食えねえってばよ。」と言いつてると、目籠がついでとんどこ行つてしまったんだと。

ナムアマタープツ

旅の坊さん、ヨロヨロお夏の畑のところに行くや何やらお経のようなものを唱えていたが、またヨロヨロとどこかへ行つてしまった。さてな、お夏の方は、家に帰るとさっそくなべにいもを入れ、グスラグスラにたんだと。

「だれにもやれぬよ、このいもは。食つた者でねえとわからねえ。へへ、だれがこじき坊主になんかやるものか……。」

お夏が、もうそろそろにえたべと、はしをつきさしてみたが、ゴツツ、ゴツツ、といつて、一つもつきささらない。

「火はついてんべ、ちゃんとにえてんべ。」

と、不思議に思つて、なべからとり出してみると、何と何と、どれもこれも、なべの中のいもは、みーんな歯が立たないくらいカチンガチン。

「どうしたあ、どうしたあ、村一番のいもが。」

お夏、ハツと思つて、自分の畑にすつとんだ。

ガツツ、ガツツ

かまをふり下ろすたびに、丸っこい里いもみたいな石が、ゴソゴソと出てくる出てくる。

お夏の自慢のいもは、ゼーンぶ石にかわつてしまったんだと。



※小・中学生のみ使えます。

